

浅香山病院で診療を受けられた患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象に該当となる方で、この研究に関するご質問や、診療情報等を研究目的に利用されることをご了承いただけない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

対象となる方	当院で実施した研究(透析患者のフレイル有症率と関連する影響因子の検討)に参加された患者さま。
研究課題名	浅香山病院における透析患者のフレイル予防に対する理学療法士の関わり方と体制の検討
当院の研究責任者	公益財団法人 浅香山病院 リハビリテーション部 室長 加藤航太
本研究の研究責任者 (他施設研究の場合)	なし
研究の概要 (目的・方法)	<p>健康寿命などを語る時、全身が虚弱した状態を「フレイル」と呼び、健常な状態を「ロバスト」、フレイルとロバスの間の状態を「プレフレイル」と呼びます。</p> <p>透析患者さまは、透析中の臥床時間があることや透析治療後は疲労から運動困難な場合が多く、フレイルになるリスクは高いと考えられます。高齢透析患者のフレイル有症割合は7割を超えるといわれています。当院では、透析時運動療法を実施していますが、運動習慣獲得やそれ以前に運動療法が必要な患者さまの把握・分析はまだまだ発展の余地があると考えています。当院では、透析時運動療法中のみ患者さまの元へ出向き、運動は患者さま本人が行います。理学療法士は、患者さまが正しく運動できているか、バイタルチェックなどから運動負荷の調整を行っています。しかし、運動習慣獲得に向けた情報収集や指導の時間はほぼないのが現状です。そこで、これらの時間の確保や透析時運動療法に参加されていない患者さまの中から、フレイル状態やフレイル移行へのリスクが高い方を早期に発見し、その予防をしたいと考えています。患者さまにご協力いただいたフレイルの判断基準の一つである改訂日本版 CHS 基準の結果を基に、透析時運動療法の体制を検討することを目的とした研究です。</p>
研究実施期間	倫理委員会承認後(2024年6月3日)より2027年3月31日まで。
試料/情報の 他の研究機関への 提供および提供方法	なし
個人情報の取り扱い	<p>仮名加工を行う(個人情報を削除し、代わりに新しく符号(番号)を付け、対応表を作り、主任研究者が管理責任者となる。)</p> <p>研究対象者が以下の情報を知り得る状態におく(研究者などの氏名、問い合わせ先など)</p> <p>調査の結果については学術集会、学術誌で公表する。</p>
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	公益財団法人浅香山病院 リハビリテーション部 研究責任者:加藤航太 住所:大阪府堺市堺区今池町3-3-16 連絡先:072(229)4882(代表)
備考	